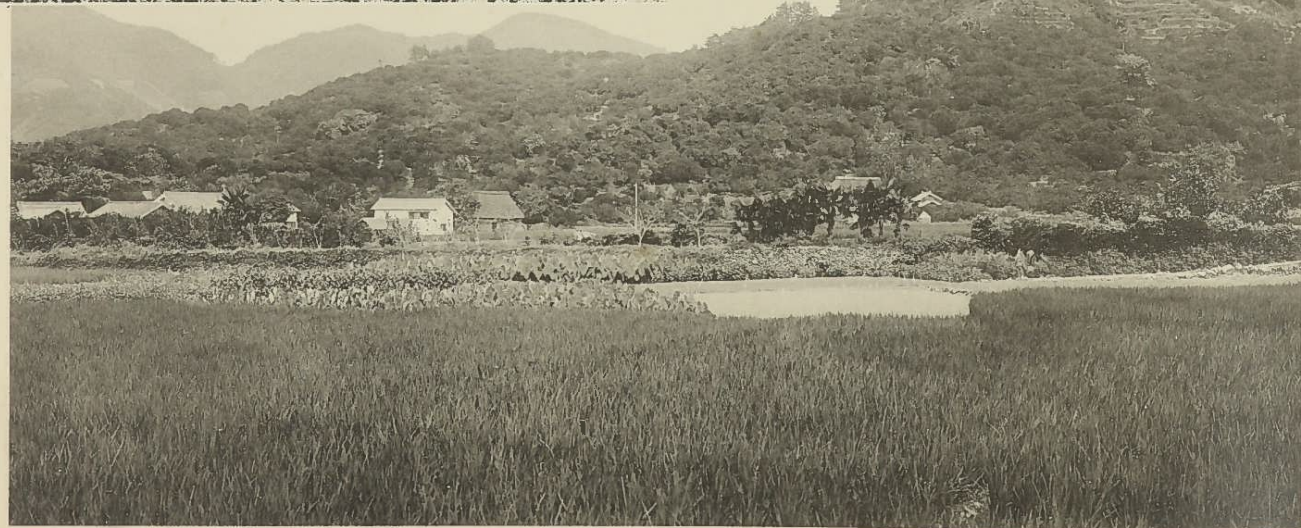


津組蜜柑

北海道郡の南部海岸に津組村あり、硯石を産し、
鑛業の振作に山り戸口増殖し、近年頗に繁榮を
來せり、此の邊一帶蜜柑の栽培に適し、山腹山腰、
悉く柑橘樹を滿栽し、古來小紀州の名あり、年産
額五千萬石を下らず、其老樹は別圖に掲ぐるか
如く大なるものあり、他に多く其比を見ざる所
とす。





牛馬放牧

本縣下の畜産地たる、九重山麓の廣漠たる原野に於ける、牛馬放牧の實況にして、毎年八十八夜より長きは十一月頃迄放牧するを常とす、其の最盛期は數千頭の多きに及び、原上遠近牛馬群棲の光景は、山野に於ける一種の壯觀たり。





大分港

大分市の西端にあり、往昔葡萄牙船の互市場たり、東は關崎の山角、伊豫の雲山を渺茫たる波上に望み、前面國東半島を指呼の間に控へ、西は四極山脚の長汀曲浦相連りて、直に別府港に達す、埠頭官線西大分驛ありて、久大、豊肥、日豊の諸線將に敷設せられんとす、實に東九州の咽喉を扼するの要地と云ふへし、工費金百四十萬圓を投して、大正三年末築設を竣ゆ、港内面積十八萬坪の内六萬坪を、干潮面以下二十尺乃至二十五尺に浚深し、三千噸以下の船舶は優に棧橋に繫留するを得へし。





佐伯港

佐伯港は一に葛港と云ふ、港内水深く、波靜に、大
人島東北を劃し、環翠湖の如く、風景畫に似たり、
佐伯市街は、西南指呼の間に連り、埠頭、官線佐伯
驛に接し、海陸交通極めて便に、帆船、汽船、出入絶
えず、灣外の形勢は海軍の演習に好適なるを以
て、艦隊の來泊亦頻繁なり。

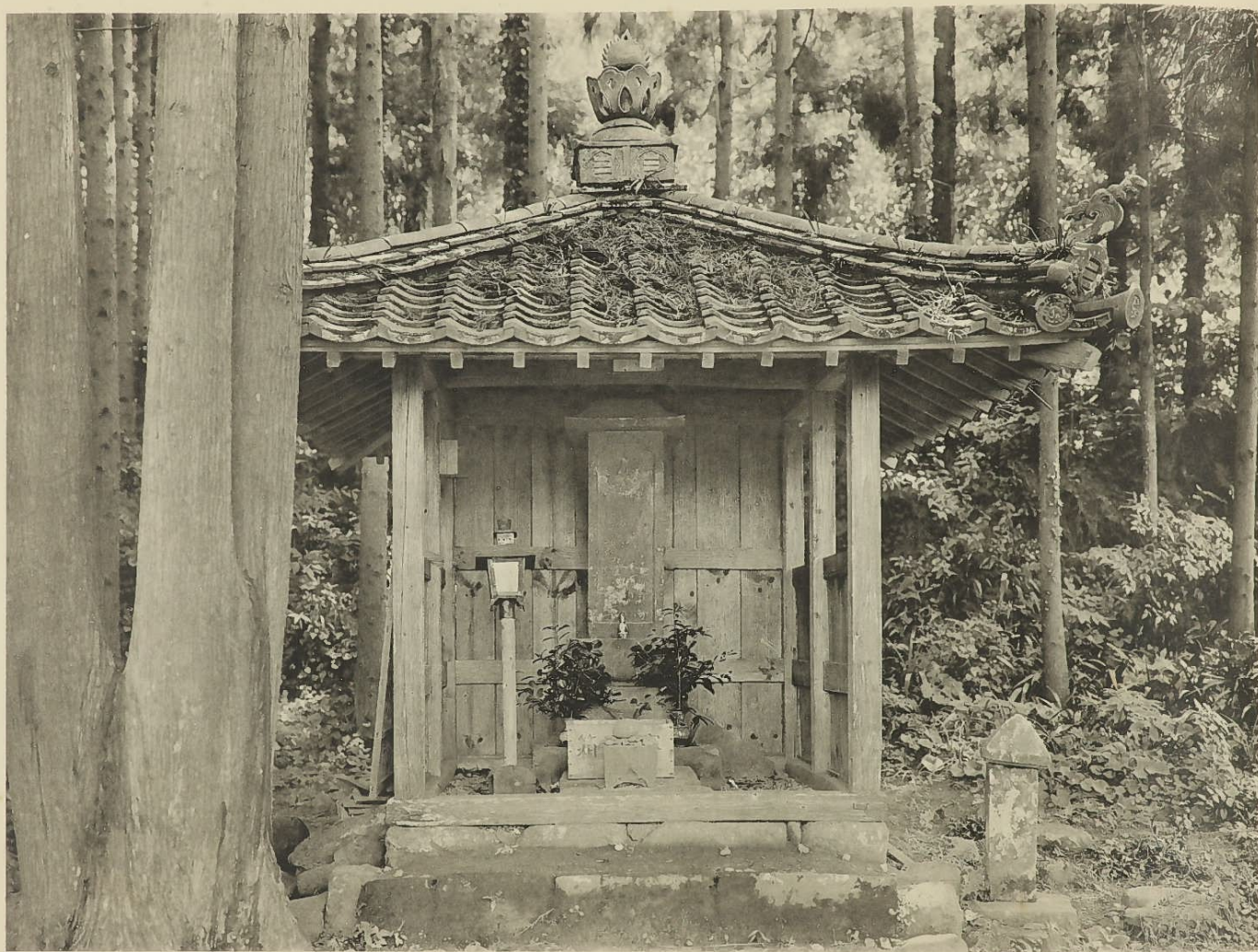




大友宗麟の墓

永録、元龜、天正の亂世に際會し、四隣を征服して、赫々たる宏業を建て、内外の船舶を豊後海に來往せしめて、十六世紀末世界文明の曙光を西陲に輝かせし、希世の英雄大友宗麟の墓は、官線津久見驛の南十町、大字中田山麓に在り、瑞峰院殿前羽林次將兼左金吾休庵宗麟大居士と刻す。





福澤翁記念碑

中津町舊城内公園地にあり、同町出身の先覺、福澤諭吉翁を記念し、翁か鼓吹したる主義を宣傳せんか爲めに、明治三十七年大分縣教育會の建設せし所なり、高さ四丈二尺、獨立白尊の四字を刻ひ、仰いて中津神社を拜し、俯して山國川を臨み、土地閑靜、庭園廣濶、四時散策に適す。





廣瀬中佐銅像

日露の役、旅順口閉塞の任務に當り、壯烈の戦死を遂げたる、軍神廣瀬中佐の銅像は、明治四十年舊同藩關係有志者の醵金を以て、山下公園内に建設せらる、園は藩侯別墅の在りし跡にて、頗る景致に富めり、像は同藩出身の名匠朝倉文夫の刻せしもの、風手酷似、永へに生動して、士氣を鼓舞せんとす。





羅漢寺

普聞嶺山羅漢寺は、耶馬溪軌鐵羅漢寺驛より東約一里、耶馬支溪中に在る古刹なり、斷崖絶壁の間、洞窟あり、飛瀑あり、天然の山態、人工の樓閣、併せて二十四勝を數ふ、青苔白露、古色蒼然として、日に映する所、悉く奇絶の風光、快絶の景趣ならざるはなし、一たひ足を此勝境に容るゝ者、必ず先づ當寺に詣つ、故を以て古來文士騷客の吟詠に上り賞觀せらるゝもの甚だ多し。





青の洞門

耶鐵樋田驛に下りて、上ること數町、峭立せる斷崖を開鑿して路を通す、延長三百步、處々に窟を穿ちて明を取る、青の洞門卽ち是なり、耶馬の奇勝是より始まる、頭陀の僧禪海か三十餘年間の、傳説的苦辛經營の結果、寛永三年八月初めて成功せるものにして、巖腰に其の石像を安置せり、洞口の傍に、渡船あり、前岸に涉りて回觀すれば、衆嶮影を倒にして深潭に映し、遊溪の客をして先づ心氣の爽快を覺えしむ。





深耶馬溪

深耶馬溪は、下毛郡山移村字鳴良より玖珠郡森町大字森舞出橋に至る深溪三里に亙るの總稱なり、翠篋碧樹の間奇巖怪壁林立し、行人をして應接に暇なからしむ、此の撮影は溪の中心二軒家附近の幽趣に係る。





富貴寺

西國東郡田染村に在り、養老年間僧仁開の創建に係る、堂の高さ四丈、方五間、柱壁障扉悉く三千佛九品淨土の佛像を畫く、金碧五彩粲然として目を奪ふ、此の畫圖奈良東大寺に藏する、天平記等の曼陀羅に等しき筆痕あるを以て、巨勢金岡の筆なるへしと云ふ、特別保護建造物に列し、同寺の木彫阿彌陀如來座像一軀、亦國寶に編入せらる。





血の池地獄

速見郡御越町にあり、濶さ十餘丈、熱湯沸々とし
て其色朱の如く、注ぐ處の谿流宛然血を流すか
如し、風土記に所謂赤湯は即ち是なり、池中より
噴出せる泥土は牆壁を塗るに適すと云ふ、左方
に青綠色の熱池あり、其の距離數尺に過ぎず、紅
綠相對して一層の奇觀を添ふ。





海地獄

別府町の西北一里餘朝日村に在り、徑十數丈、深さ測るへからず、其色深緑蒼海の如し、故に此の名あり、渦巻き騰る湯煙は煖々として凄壯を極め、遠く數里の外より望見するを得へし。





由布嶽

由布嶽又木綿山と書す、其の形の似たるを以て
豊後富士とも稱せらる、崔嵬雲を凌ぎ、屏顔愛す
へく、古來歌枕となりて吟咏に上りしこと多し、
源爲朝が大蛇を射留めし山は是なりとも傳ふ、
山上凹地あり、舊噴火坑に屬し、山麓温泉所々に
湧出す。





魚住の瀑布

直入郡竹田市街を距る十町、白瀧川の水流断崖を落下する所是れなり、雌雄二瀑、高さ各十丈、幅八十間に及ぶ、水勢滔々として壯觀を極む、下流に魚住橋あり、橋上より雄瀑を望むべく、橋を渡り流に沿ふて少しく溯れば、觀瀑の小亭あり、右側の巖窟を清涼窟と云ひ、清泉滾々として湧出す、甘冽掬すへし、加ふるに眼前咫尺の間、雌瀑の聲々落下するあり、爽快謂ふへからず。





龍門瀑布

玖珠郡東飯田村に在り、傍の一梵宇龍門寺と號す、瀑布の高さ五丈、幅二丈餘、中斷して二段となり、落ちて深潭に入る、東岸を吐月峰といひ、西岸を歸雲洞と呼ぶ、中段瀑流の湛ふる所を白雲庭と名つけ、下流巖角に碎けて、碧淵に注く所を金珠湍と稱し、傍の一小亭を普證閣と命す、世に瀑布多しと雖も、其の優美なること斯の如きは多く其比を見ざる所とす。





九重山

直入、玖珠二郡に跨り、山脚肥後國に延ぶ、大船山、
黒嶽等の諸山駢立して九州アルプスの稱あり、
高峰九岐して、其狀九山の重疊せるに似たり、南
面第一峰に二大池あり、一を空池と云ひ、水無く
深さ三百俣、一を猪鹿狼寺池と云ひ、漾々湖の如
く、深さ測るへからず、後峰九重山明神あり、綏靖
天皇を祀る、西南山腹に梵宇猪鹿狼寺あり、建久
年中、梶原景季、仁田忠常、九重山の菰野に田獵し、
獲る所の禽獸を瘞めし跡と稱す。

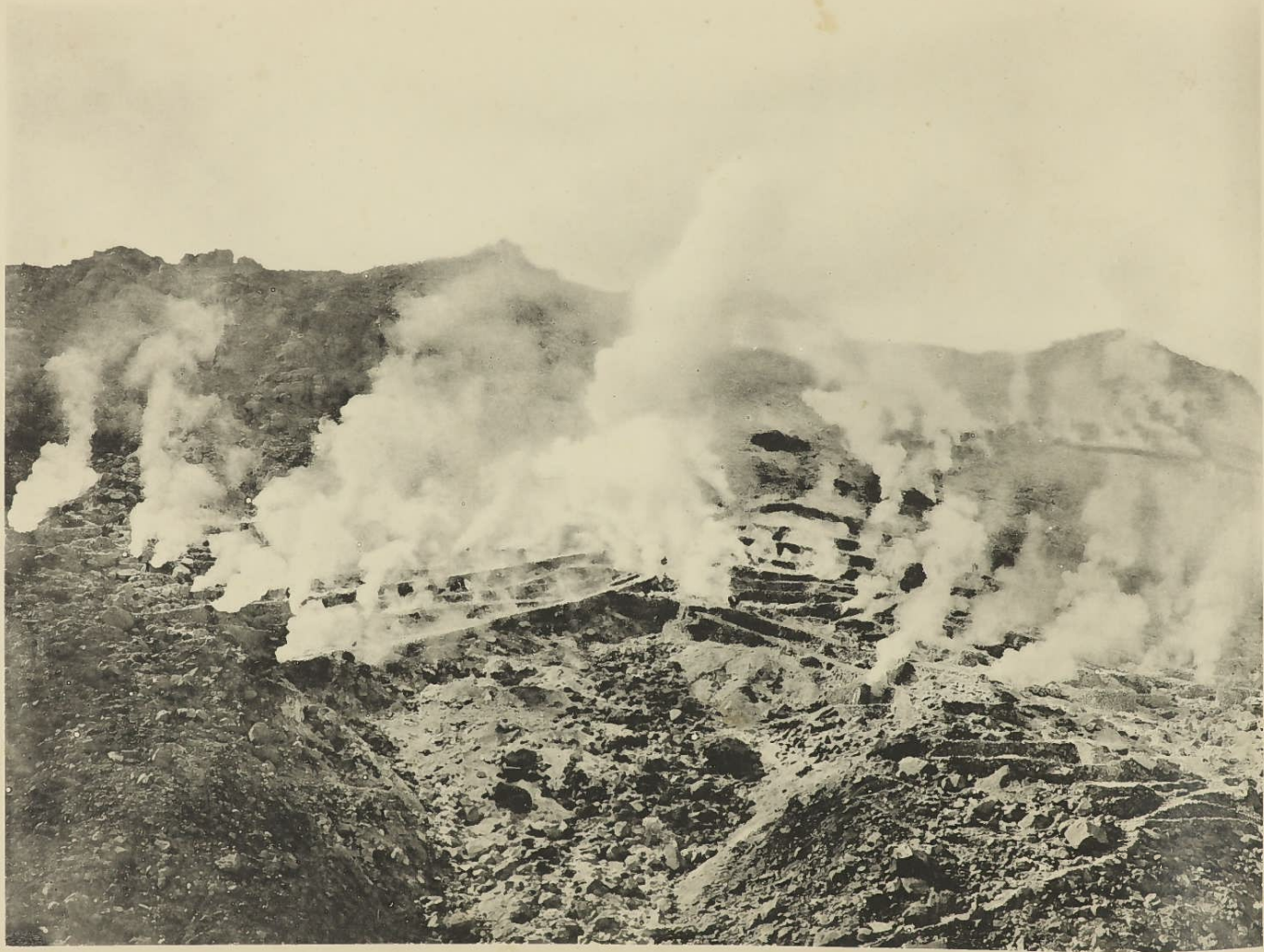




久住硫黃礦

玖珠郡飯田村の東、九重山の北東山腹に當り、天空快澗の所、絶えず濛々たる白烟を噴揚す、天然硫黃年々三百萬斤を産出する、六萬餘坪の礦區にして、明治二十年頃より、大坂廣田仁三郎の經營する所たり、質の純良なるを、産額の豊富なるに於て、全國有數と稱せらる。





日出生臺

玖珠郡森町の東、四里の地に在り、四面山を以て
圍まれ、東西二里、南北一里半、其の間幾多の丘陵
起伏する高原にして、理想的實彈演習地と稱せ
らる、明治三十二年以來、陸軍省の管する所とな
り、現在十數棟の廠舎を建て、毎年五月より十一
月に涉り、歩兵砲兵等の實彈射擊演習行はる。





大正九年十月二十八日印刷
大正九年十一月一日發行

大 分 縣

東京市日本橋區上槇町八番地(警服社)
印刷者 遠 藤 遠

